合衆
王國

內國稅年報編纂書

第四編

大藏省
翻譯課

114
A 1842
48

宮内省圖書寮

宮内省 王國 國稅年報編纂書

第四編

苦草稅

苦草稅ハ千八百六十二年ニ於テ之ヲ廢止スト雖モ從前ノ年報書中此項ヲ掲クルヲ以テ茲ニ之ヲ登載ス

〔千八百五十六年〕苦草稅ハ各種ノ國產稅中商賈ニ煩擾ヲ與フル無ク最モ簡便ノ法ヲ以テ之ヲ收入シ其收稅經費モ亦隨テ僅少ナリトス實ニ昨年ノ如キハ其經費ハ現收稅額ノ七厘五毛ニシテ異常ノ時ニ際スト雖モ其收額ノ一分ニ超過スル者ハアラサリシ也

千八百五十五六年ハ苦草收獲ノ史編中最モ注意ヲ要スヘキノ年ニシテ即チ千八百五十五年ノ如キハ古來未曾有ノ豐熟ヲ致シ其翌年ハ又前年ニ次テ稀有ノ豐熟ヲ致スノ時ナリ而シテ其前年間ノ收稅額ハ七十二萬千百八十三磅ニ下ラス又苦草ノ

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

耕地ハ千八百五十五年ニハ五万七千七百五十七エークル
我四反十八歩ニシテ其翌年ニ在テハ五万四千五百二十七エー
八八八ニ當ルニシテ其翌年ニ在テハ五万四千五百二十七エー
クル」ナリシカ苦草ノ價直ハ斯ノ如ク連年ノ豊熟ニ逢テ非常ニ
低減シタリ憶ニ當時ニ於テ千八百五十五年間異常ナル收獲ノ
餘ヲ承ケテ其翌年ハ必ス大ニ苦草ノ産出額ヲ減却スヘシトノ
想望ナカラシメハ前年ノ耕地ヲ変シテ他ノ目的ニ供スル所ニ
一層ノ甚シキニ至ルヤ必セリ
將タ苦草税ノ收納ニ関シテハ脱税ヲ計ル者極メテ尠ナク唯難
スル所ハ税金ヲ收入スルニ在リ蓋從来ノ法令ニ據テ苦草栽培
者ニ納税期ヲ寛假スルノ特許ヲ與フルヤ九月ニ納ムヘキ第一
期納税額ハ翌年五月ニ納ノ第二期ノ納税額ハ十一月ニ納メシ
ム栽培者ヲシテ其苦草ヲ發賣シテ得ル所ノ金額ヲ以テ投機ノ
匂賣ニ從事シ自ラ收納ムスヘキ税金ハ偏ニ射利ノ成果ニ任セシ
ムルノ弊ナキヲ免レス抑期ノ如クノ重税ヲ苦草ヲ發賣スルノ
前ニ於テ納メシメ或ハ納税ノ故ヲ以テ損益ヲ計ラス強テ之ヲ
發賣セシムルニ至ルハ固ヨリ苛酷ノ措置タルヘシト雖モ若シ
少シク今日ノ納税期ヲ短縮スルカ若クハ苦草ヲ發賣スルノ時
ニ於テ之ヲ納メシムルノ方略アラシメハ幾分カ栽培者ノ愁訴
ヲ減スルニ至ルヤ必矣
千八百五十七八年千八百五十八年ニ至ル三年間ハ苦草ノ成熟
甚タ豊饒ニシテ自ラ其價直ヲ低減シ栽培者ハ大ニ困難ノ地
陥リタルカ故ニ千八百五十八年ノ第一第二ノ納税ヲ猶豫セラ
レンヿヲ大蔵卿ニ請願シ終ニ其裁可ヲ經テ同年第五月ニ納ム
ヘキ税ヲ第七月十五日迄ヲ延期シ又第十一月ニ納ムヘキ者ノ
一半ハ第十二月ニ納メ他ノ一半ハ翌年第一月ニ納メシムルニ
決セリ

千八百五十八九年千八百七八年ノ交ニ於テ苦草ノ耕地ハ三千「エークル」ヲ減スルニ拘ラス連年ヲ豊熟ニ依テ其價直ハ大ニ低減シ人々自ラ政府カ當年千八百五十八年ノ稅額ヲ放免スルニ非サレハ必ス之ヲ永遠ニ廢止スヘシトノ臆想ヲ喚呼シタレハ栽培者ハ其價直ノ政府ニ收ムル所ノ稅額ヲ倍蓰シテ労費ヲ償フニ足ラサルモ陸續トシテ之ヲ市場ニ販賣スルニ至レリ幾十ク栽培者ハ頻リニ閣下ニ迫テ納稅延期ヲ請願シテ止サレハ閣下ハ遂ニ之ヲ四期ニ分割シテ收納セシムルニ決シ即チ千八百五十八年第五月第八月第十一月及ヒ其翌年第一月ヲ以テ納稅期日ト定メ其第五月及ヒ第八月ニ納ムヘキ者ハ一箇年四分ノ利子ト栽培者ノ連署シタル證書ヲ納ルヽトキハ各々第十一月及ヒ第一月ニ延期スルヲ得ルヿヲ本寮ニ命セリ然ルニ此特許ニ依テ連署ノ證書ヲ納メ第一納稅ノ延期ヲ願フ者ハ全國ノ苦草栽培者六千五百名中僅ニ七百七十三名ニシテ其金額ハ四万貳千六百九十一磅ニ止リ其第二納稅ノ延期ヲ願フ者ハ四百七十九名ニ過キサリシカ故ニ別ニ非常ノ困難ヲ釀スニ至ラサリキ

苦草ハ概子歐洲大陸ニ向テ之ヲ輸出シ殊ニ白耳義及ヒ日耳曼諸國ニ於テ苦草ノ不作スルニ至テハ輸出ノ量愈々増多セリ蓋シ苦草ノ輸出ニ於ケルヤ正實ノ商業ヨリ出ル者アリト雖モ亦政府カ稅額ヲ還償スルノ故ヲ以テ之ヲ輸出スルノ場合ナキニ非ス而シテ時或ハ奸商等カ苦草ノ供給足ラサルノ機ニ投シテ浮利ヲ射ンカ為メニ故ラニ貯藏シタル舊苦草ヲ輸出セントスル者アリテ本寮ノ吏員ハ其質ノ粗惡ナルヿヲ諒知スト雖モ止ヲ得ス其請求スル所ニ隨テ之カ還償ヲ為サヽル可ラス千八百五十七年間苦草ノ出總額ハ百四十五万零四封度ニシ

テ千八百五十八年間ハ四十七万七千二百五十一封度ナリ而シテ此内二百六十四万零九百二十六封度餘ハ「アントウエルプ」「オーステンド」及ヒ旱堡ニ輸送シ其餘ハ悉ク豪洲植民地ニ輸送セシ者ナリ然リト雖ヒ千八百五十八九年ノ交ニ至テハ該地ニ輸出スル者僅ニ七十六万九千六百八十七封度ニ過キサリキ千八百五十九年及ヒ六十年苦草ノ收獲一タヒ豊饒ナルヨリ遂テ本年ニ至ルヿヲ第五年期トス蓋シ千八百四十五年乃至五十四年ノ十年間苦草ノ産出額ハ三千六百万封度ノ平均ニシテ千八百五十五年以降ハ其耕地一万二千「ヱーク」ル余ヲ減却スルモ同年ヨリ之ヲ五箇年ニ平均スレハ其産出額ハ六千一百万封度ノ多キニ至ルヿ而シテ其極ヤ愈々價直ノ低減ヲ致シ益々苦草税ノ廢止セサルヿ可ラサルヲ痛論スルモノアルニ及ヘリ

千八百五十九年第五月及ヒ第十一月ニ納ムヘキ苦草税額ハ大

藏卿ノ裁可ヲ經テ前年ノ如ク之ヲ四期ニ分割シテ延納セシメ若シ栽培者ニテ二期ノ納税ヲ好ミスルアラハ四分ノ利子ト證人ノ連署シタル證書ヲ納レテ第一期税ヲ第十一月ニ納メ其餘ヲ翌年第一月ニ納ムルヿヲ允可シタリ然ルニ全國ノ栽培者六千三百名中第一期税ノ延納ヲ願フ者ハ僅ニ七百七十三名ニシテ其金額ハ四万二千六百九十一磅ニ止リ第二期税ノ延納ヲ願フ者ハ四百七十九名ニ過キサリキ

千八百五十八年間苦草ノ輸出總額ハ四百十七万七千二百五十一封度ナリシカ千八百五十九年ニ至テハ其数減シテ僅ニ五十四万五千三百八十三封度トナレリ

千八百六十年ニ於テハ若草税ノ收納期ヲ弛メ即チ第五月十六日ニ納ムヘキ全税ノ半額ヲ第八月十六日ニ迄延期シテ栽培者ニ五分ノ利子ト証人ノ連署シタル證書ヲ納メシメタリシカ

此特許ヲ得テ利トスル者甚タ尠ク第五月ニ納ムヘキ稅金ノ
總額二十九万九千六百七十三磅ニ就キ二十七萬五千二百三十
七磅ハ之ヲ收納シタルカ故ニ其延期スル所ノ額ハ僅ニ二万四
千四百四十一磅ニ過キス

千八百六十年及ヒ六十一年 千八百六十年苦草稅一封度ニ付二
邉尼ト百分ノ五ナルヲ減シテ一邉尼半ト為シ且納稅期（從前ニ在テハ
稅金ノ半額ヲ第五月ニ其余ヲ第十一月ニ納メシムルヲ改正シテ千八百六十一年ニ於テハ
之ヲ第三月ニ納ノ其翌年ヨリハ第一月ニ納メシムルニ決シタ
リ然ルニ千八百五十九年ノ産出ニ係ル苦草ノ第二期納稅額ハ
既ニ延期シテ本年ニ至ルヲ以テ當ニ之ト混同スルノ患アルノ
ミナラス本年ノ新稅ニ加ルニ前年ノ巨額ナル稅金ヲ以テセシ
メハ其之ヲ收入スルノ極メテ難キヲ主張スル者アリ依テ從前
ノ如ク證人連署ノ證書ヲ納テ本年ニ納ムヘキ稅額ニ五分ノ利
子ヲ添ヘ以テ其納稅期ヲ第八月ニ迄延シタリシニ其稅額ノ三
分二餘ハ業既ニ收納シタルカ故ニ納稅延期ノ擧ハ却テ好結果
ヲ呈シ又千八百五十九年ノ第二期納稅額ハ殆ント皆納シテ僅
々ノ剩餘アルノミ

又本寮ニ於テハ納稅延滯ノ時ニ當リ栽培者ノ家産蕩尽スルモ
到底稅額ヲ收ムヘカラサルノ場合ニ於テハ必ス證人二名ノ連署
セル證書ヲ納シムルニ決セリ

千八百六十一年 本年ハ即チ本會計年間ニ賦定シタル苦草稅
ヲ其年度間ニ收入スルノ法ヲ施行スルノ初年ナリ然ルニ此年
ニ於テハ別ニ千八百五十九年及ヒ六十年ノ未納稅金ノ尚ホ收
入スヘキ者アルヲ以テ其總額ハ二十一万五千八百零六磅ノ多
キニ及ヘリ蓋シ千八百六十年間ニ收入スル稅金ノ巨額ナルハ
其前年間苦草ノ成熟極ノ良繞ナルノ結果ナルカ故ニ千八百

六十一年ニ賦税セル苦草ノ秤量ハ之ヲ千八百六十年ニ比スレ
ハ其数ヲ倍加スト雖モ其收税金ニ至テハ却テ三十六万六千九
百二十二磅ノ減差ヲ生セリ
外國ノ産出ニ係ル苦草ノ輸入税ハ一「ポンドルトウエイト」ニ付
一磅十リシニ千八百六十二年第一月一日ニ於テ十五司令ニ減
シタレハ随テ大ニ之カ輸入ヲ増多シ千八百六十二年第三月三
十一日ニ終ル一季間ニ内國[illegible]消ノ為メニ輸入スル者ハ實ニ七
百三十六万一千九百八十四封度ノ多キニ及ヘリ蓋シ苦草税ノ
廢止ハ當年ノ事ニ非スト雖モ今茲ニ收税經費ノ一點ニ就テ説
カンニ原来苦草税收入ノ事務ハ一時ノ備負ニ仕シ其經費ノ如
キハ僅ニ本寮歳費科目中ノ一小部分タルニ過キサリシカ苦草
税廢止ノ後ニ於ケルモ為メニ收税吏員ヲ廢黜スヘキニ非サレ
ハ憶ニ一歳ノ經費ヲ節減スルハ四千磅ニ超ヘサルヘシ

千八百六十二三年千八百六十二年第六月三日ヲ以テ苦草税ハ
既ニ廢止シタリト雖モ苦草ノ輸出ニ於ケル税額ノ還償ト輸入
税トハ依然トシテ第九月十六日迄之ヲ施行セリ是ヨリ先キ第
四月一日乃至第九月十六日間苦草ノ輸出ハ殊ニ著ルク其総額
八百五十六万五千三百十七封度ニ至リ之ヲ前五年間ノ平均額
ニ比スレハ實ニ三十万封度ヲ超過シタリシカ其輸出ハ外國ノ
市場ニ於テ之ヲ需求スルノ迫切ナルカ為メニ非ス又其品質ノ
税法ニ所謂販賣ス可ラサル者タルニ非ス唯内國ニ於テ需求ノ
多カラサル品種ニ係ルカ故ナリ故ニ若シ内國ノ苦草ヲ輸出シ
テ復タ輸入スルノ預防トシテ六箇月間海関税ヲ課スルノ制法
ナカラシメハ之ヲ復入スルノ目的ヲ以テ輸出スルノ量タル更
ニ一層ノ多キヲ加ヘタルヤ疑ヲ容ル可ラサルナリ
苦草ノ税ヲ廢止スルノ後之ノ輸出スルカ為メニ還償シタル税

額ハ七万二千百六十四磅タリシカ尚ホ第九月十六日栽培者ノ
儲蓄スル者ニ對シテ還償スル所ノ額八万三十三百十八磅ニ
及ヘリ是乃チ當時「ハンバルトウエイト」ニ付七司令乃チ國産稅ノ半額
ノ還償稅ヲ免許スルニ依リ二千六百六十六万千九百四十磅ニ
拂フ所ノ者ナリ又苦草收納期ニ於テ一時ノ傭負ニ支給スル所
ノ金額ハ大約四千磅ナリシカ該稅廢止ニ就テ合計六百六十磅
ヲ支給スル收稅監督三名ヲ免黜セリ

紙稅紙稅ハ千八百六十一年ニ於テ之ヲ廢止スト雖モ從前ノ年報書中此項ヲ掲クルヲ以テ茲ニ之ヲ贅載ス

千八百五十六年紙稅ハ千七百十二年始テ之ヲ施行シ國産稅中
最モ舊故ナル者ノ一ニ居ル蓋シ從前ニ在テハ品質ノ善惡ニ因
テ其率ヲ異セシカ千八百三十九年ニ至リ之ヲ改正シテ一封度
ニ付一邉尼半ノ均稅ヲ課シタリ尓來紙稅ニ就テハ唯五分ノ倍
稅ヲ課スルノ外ハ曾テ立法府ノ改正ヲ要スル無ク其製造者ニ
允可スル所ノ便法ハ總テ本寮ニ於テ之ヲ處分シ既ニ該稅ノ賦
定收入法ヲ改正スルノ後ハ愁訴ノ聲漸ク息ミ今ヤ絶テ之ナキ
ニ至レリ

製紙ノ如ク恒ニ課稅ノ量數ヲ增多スル者ニ於テハ別ニ收稅吏
員ノ臨監ヲ要スル無シ而シテ千八百四十二年乃至千八百五十
五年間ニ課稅セル製紙ノ量數ハ即チ左ノ如シ

千八百四十二年	九六、六九三、三二三封度
千八百五十二年	一五四、四六九、二一一封度
千八百五十三年	一七七、六三三、〇一〇封度
千八百五十四年	一七七、八九六、二二四封度
千八百五十五年	一六六、七七六、二三四封度

千八百五十五年ニ至リ遽ニ製紙ノ量數ヲ減却スル所以ノ者ハ
他ナシ製紙ノ用ニ供スル物料ノ供給ニ乏シキ隨テ之カ價直ヲ

騰貴シタルニ依ルナリ按スルニ千八百四十八年製紙ノ用ニ供スル綿麻ノ爛布ハ一「ポンドルトウヱイト」ニ付十三司令ナリシカ千八百五十四年ニ於テハ十六司令乃至十九司令ノ間ニ騰翔シ漸ク千八百五十五年ニ至テ十六司令乃至十七司令迄ニ低減シ尋テ千八百五十六年ニ及テハ更ニ十四司令乃至十五司令ノ間ニ低減シタリ故ニ千八百五十六年ニ於テ製紙ノ量数増多シテ一億八千八百八十七万一千封度ニ課税スルニ至リシハ蓋シ爛布ノ價直ノ低減スルニ依ルト云ハサル可ラス

製紙ノ輸出ハ内國ノ靡消ニ均シク其量数ヲ増多シ千八百四十四年間内國税ノ還償ヲ請テ輸出スルノ量ハ四百九十万封度ナリシカ千八百五十四年ニ及テハ頓ニ千六百十一万二千封度ニ増多シタリ又千八百五十五年第十二月三十一日ニ終ル年度間紙税ノ收入額ハ百零七万七千磅ニシテ千八百五十六年間ニハ百二十二万磅ナリキ

千八百五十七八年若夫紙税ノ收納者ヲシテ一般ノ國産税ニ於ケルカ如ク恒ニ税法ノ撿束抑靡ヲ愁訴スルヿアラシメハ紙税ノ廢止ヲ主張スル者ハ敢テ其口實ヲ設クルニ難シトセサルヘシ然リト雖モ收税ノ方法ニ至テ納税者ヲ煩スヿ甚タ尠ク且納税者ノ請願ニ應シテ曾テ其法ヲ改正シタルハ紙税ニ若ク者アラス假令ハ千八百五十七年ニ於テ封筒製造者ノ為メ截紙ノ屑片ニ税額ノ還償ヲ允可スルカ如キハ即チ其一例ナリ

一邊尼郵便税法ノ始メテ此國ニ行ハルヽヤ封筒ノ製造ハ日一日ヨリ増多シ遂ニ一種営業ノ地歩ヲ占ムルニ至レリ然ルニ従前ニ在テハ税法ニ依テ製紙者ノ製造スルヲ禁止シ特リ文具商貫ノミ之ヲ製造スルヲ得タリシカ千八百五十年本寮ニ於テハ此禁法ノ曾テ政府ノ歳入ヲ保護スルニ足ラスシテ偏ニ人民自

由ノ営業ヲ束縛スルノ嫌疑アルヲ以テ遂ニ之ヲ廃止シタレハ其結果ハ啻ニ製紙者ニ封筒製造ノ便益ヲ共フルノミナラス若シ常例ヲ以テ論セハ税額ヲ減免シ若リハ之ヲ還償セサル可ラサル者（即チ直角ノ製紙ヲ截断シテ封筒ヲ製スルカ為メニ生スル所ノ屑片）セサルニ至レリ

抑此禁法ヲ施行スルノ間ニ在テ紙税ヲ課スルニハ恒ニ製紙場ヨリ搬出スルノ前ニ於テスルヲ以テ文具商賈カ之ヲ得テ封筒ニ製セントスルニハ鋭角ノ小片ニ截断シテ屑片ヲ生スルモ其税額ハ幾分カ屑片ニ及フノ不幸アリト雖ヒ今ヤ否ラス製紙者ハ製紙場ニ於テ封筒ヲ製シ其製造全ク終ルヲ俟テ始メテ課税スルカ故ニ彼ノ屑片ノ如キハ再ヒ軟塊ト為シ以テ製紙ノ用ニ供スルヲ得ルニ至レリ

夫如斯ク一方ニ於テ従来ノ禁法ヲ解キ製紙者ヲシテ充分ノ利益ヲ享有セシメ其結果ハ忽チ文具商賈ヲ蹙スルニ至ラシメタレハ又一方ニ於テ文具商賈カ為メニ損害ヲ蒙ルナキニ非ス是ニ於テカ文具商賈ハ本寮ニ就テ同一ノ利益ヲ享有セン事ヲ請願シテ止ス而シテ其勢支フヘキニ非サレハ遂ニ千八百五十七年閣下ノ裁可ヲ経テ屑片ヲ製紙場ニ送テ軟塊ト為スニ方リ收税吏員ノ監視ヲ兼ケテ詐偽ニ出サルヿヲ確認スルヿハ之ニ税額ヲ還償スルノ制ヲ設ケタリ憶ニ文具商賈ト製紙者トヲシテ均當ノ地位ニ至ラシムルハ其事タル固ヨリ簡單ニシテ特ニ之ヲ登載スルニ足ラサルカ如シト雖ヒ其實際上ニ困弊ヲ生シ且政府ノ歳入ニ影響スル所ノ者極メテ大ナルニ至テハ夙ニ閣下ノ諒知スル所ノ如クナレ〻安ンソ之ヲ黙々ニ附シ去ルヲ得ンヤ

今ヤ製紙ノ販責ハ如何ナル域ニ達シタル乎又我英國製ノ紙

質ハ日耳曼佛蘭西亜墨利加ノ製品ニ優ルヲ以テ之ヲ合衆國、加拿他、印度、豪洲及ヒ其他ノ海外植民地ニ輸出スルノ日々ニ多キヲ加フルハ果シテ何ノ原因ニ依ル乎ヲ諒知スル者甚タ稀ナリ然リト雖ヒ如斯ハ税法ニ依テ製紙ノ業ヲ撿束スルノ甚タ酷ナラサルノ一證ト為スニ足ルヘキナリ将タ紙税ノ漏脱ニ関シテハ輓近ニ至テ大ニ其数ヲ減シタリ而シテ「エイルドリー」ノ蘇格蘭市ニ於ケル脱税ノ如キハ到底收税吏員ノ失體ニ帰セサル可ラス ト雖ヒ賄賂ヲ豫防スル事項ニ就テハ既ニ税法ノ在ルアレハ必スシモ之ヲ意トスルニ足ラサルヘシ

千八百五十八九年紙税ハ必ラス好機會ヲ俟テ廢止セラルヘシトハ数年前ヨリ衆庶ノ預望スル所ナリシカ本寮ニ於テハ該税ヲ收入スルニ為メニ多少ノ困弊ヲ生シタリ抑何ノ物品ヲ問ハス製造ノ時ニ當テ課税スルノ場合ニ於テハ衆庶ノ嗜好ニ投セシカ為メニ製造ノ方法ヲ改正シ或ハ新規ノ物料ヲ使用シ其他一切ノ新發明アル毎ニ課税ノ方法モ亦隨テ改變セサル可ラサルヤ固ヨリ辨ヲ俟スト雖ヒ其之ヲ要スルノ繁且大ナル紙税ノ如キハ未タ曾テ之アラサルナリ然ルニ下議院ノ一タヒ此税ヲ廢止スルニ決議セシ以来ハ従来ノ收税法ヲ改正スルノ議案ヲ該院ニ紹介スルヲ得サルカ故ニ本寮權限ノ及フ所ハ務メテ便法ヲ新設シテ製造ノ景況ニ應スルカ将タ従来ノ成法ヲ墨守シテ巨額ノ税金ヲ失フカノ二者ニ就テ其一ヲ擇ハサル可ラス而シテ本寮ニ於テハ断然便法ヲ新設シテ製造ノ景況ニ應スルニ決シタリ故ニ千八百五十八年第一月下議院ニ進呈スル報告書ニ掲クルカ如ク本寮ニ於テ紙税ノ還償ヲ允可シタルカ如キハ實ニ其情状ノ止ヲ得サルニ出テ敢テ人ノ之ヲ非議スル無キヲ信ス

又同時ニ伊ノ商賈ニ與フル所ノ利益ヲ以テ乙ノ商賈ニ及ホサシト欲シ新法ヲ設クルカ為ノニ一種ノ困難ヲ生シタリ前既ニ詳陳スル封筒製造并ニ骨牌板紙製造ノ場合ノ如キハ一旦紙税ヲ廃止セントシテ尚之ヲ施行スルノ弊害ニ非スシテ何ソヤ

従来第一等紙（多兒）ヲ塗タル索ニ非サル物料ヲ以テ製スル者ヲ以テ製スル板紙製造者カ板紙ヲ截断シテ骨牌ヲ製シ其幅員六十四因（インチ）平方ニ過キサル片ハ製造願書ヲ呈セス又免許状ヲ納メスシテ其業ヲ営ムヲ得セシメタリ憶ニ此特典ハ板紙ヲ截断シテ骨牌ヲ製スル片ハ啻ニ屑片ノ用フ可ラサル者アルノミナラス尚槀彩ノ為メニ其秤量ヲ増多スルノ故ヲ以テ允可シタルヘシ然ルニ千八百三十五年此特典ヲ廢シテ收税官吏ノ監視ニ属シ骨牌製造者モ亦均シク同一ノ規則ニ従ヘシカ蓋シ如斯ハ固ヨリ本寮ノ冀圖スル所ニ非ス本寮ニ於テハ竊ニ従来特典ヲ許シタル板紙製造者ヲ收税官吏ノ監視ニ属スルノミナラス却テ其特典ヲ一般ノ製造者ニ及サンヿヲ企望セリ況ンヤ板紙ト骨牌トノ間ヲ区分スルノ難キヲ致シ又板紙ノ幅員ヲ制限スルノ大ニ営業ヲ妨クルノ弊害アルニ於テヲヤ故ニ今ヤ板紙製造者ヲシテ其製造ノ板紙ヲ搬出スルニ先テ邊端ヲ截断セシメ以テ收税官吏ノ時々之ヲ監視スルヲ止メタリ斯ノ幅員廣大ナル板紙ノ邊端ヲ截断スルノ制タルヤ固ヨリ無益ノ業タルニ過キスト雖ト板紙製造者ヲ監視スルノ害ニ收税額ヲ増スニ足ラサルノミナラス却テ其費額ヲ要スルノ益々多キヲ加ルヲ以テ本寮ニ於テハ今還ニ其法ヲ改正シテ従前ノ例規ニ復スルヲ切望セサリシニ豈料ランヤ英蘭東方ノ一州ニ住スル製造者ハ此制法ヲ奇貨トシテ国産税局ノ印紙ヲ貼付セサル板紙及ヒ「シムボール」ヲ郁伯林ニ搬送シ非常ノ廉價ニテ之

ヲ販賣スルカ故ニ該地ノ製造者ハ為メニ多少ノ損害ヲ蒙リ頻
リニ現施ノ稅法ヲ廢止セラレンヿヲ請願シテ止ス依テ本案ニ
於テハ直ニ其事情ヲ採案スルニ「ミルボールド」ハ其道端ヲ截斷
シテ骨脾ニ擬シ且郵伯林ニ輸送スルノ運費ヲ要スルニ拘ラス
却テ其價直ノ低廉ナル所以ノ者ハ坑土若クハ礦物ヲ混和シテ
其秤量ヲ增多スルニ依ルト云フ夫如斯キ不正ノ製造ヲ抑制ス
ルハ特リ廉直ノ製造者ノミナラス其案消者モ亦均シク企望ス
ル所ナルカ故ニ本案ニ於テハ敢テ孤疑スルヲ要セスト蚕氏之
ヲ處分スルノ前ニハ猶稅法ノ全局ニ就テ熟考スル所ナカル可
ラス
千八百五十七八年ノ報告書ニ開陳セル理由ニ依リ千八百六十
五年及ヒ六十七年ニ於テ問下ノ裁可ヲ經テ封筒ヲ製造スヘキ
當リ屑片紙上ニ稅額ヲ還償スルノ制ニ就テハ曾テ追悔スヘキ

ノ事情アルヲ聞カス憶ニ此制法ニ依テ製紙者カ免レ所ノ稅
額ハ僅ニ四千百七磅ナルヲ以テ之ヲ全國内ニ案消スル封筒ノ
莫大ナルト其内五億万枚ハ毎年駅逓局ニ就テ各所ニ配達スト云フ其價直ノ巨額ナルトニ
比スレハ九牛ノ一毛タルニ過キスト蚕氏或ル製紙者ノ為メニ
ハ実ニ緊要ノ法制ナリト云ハサル可ラス而シテ紙稅ヲ還償ス
ルニ就キ其要求ノ奸計ニ出ルカ為メニ之ニ應セサリシハ僅ニ
一回アルノミ故ニ今ヤ本案ニ於テハ此法制ヲ擴充シテ着色紙
ニテ製シ或ハ布帛ヲ以テ紙背ニ貼付シタル封筒ノ秤量三分一
ヲ除キ着色料若クハ布帛ノ還償トシテ其稅ヲ減免スルモ決シ
テ政府ノ歳入ヲ損害スル無キヲ信ス
「バルリー」氏ニ係ル訴訟即チ同氏ノ製造スル羊皮紙ハ國產稅法
ニ掲クル所ノ製紙中ニ含有スヘキ乎否ノ件ハ近頃會計裁判所
ノ判決ニ依テ政府ノ勝訴ニ帰シタリ將タ所謂紙料ナル者ハ本

察ニ於テ其貨辨ヲ審査セシニ之ヲ再製スルヲ要セス他ノ製紙ノ如ク直ニ使用スルニ足ルカ故ニ若シ夫ノ紙料ヲ寸断シテ製紙場ニ送ル件ハ課税ヲ免除スヘシトノ令ヲ発シタリ然ルニ製造者ハ此令ヲ遵守スル丁ヲ欲セサルヲ以テ今ヤ一般ノ税法ニ従テ課税スルノ外ハ他ノ良策アルヲ知ラス依テ曩ニ其事由ヲ伺陳シテ閣下ノ裁決ヲ仰キタリキ

(千八百六十一年)紙税ハ千八百六十一年第十月一日ニ廃止スルカ故ニ本察ノ年報書ニ掲クルハ此年ヲ以テ終リトス此時ニ當リテ御責商賈及ヒ文具商賈ノ貯蔵スル紙ハ其秤量六千二百三十八万七千零八十九封度ニシテ為メニ還償シタル税額ハ三十五万五千四百六十一磅ニ至レ是第五月十五日以降ニ賦課スル紙税ノ全額ト其以前ニ賦課シタル製紙ノ秤量一封度ニ付一邑尼ノ税トヲ従算スル者ナリ然リト雖モ此還償税額ハ廃税ノ為メニ既ニ大蔵省ニ收納シタル者ヲ以テ還付シタルニ非スト何トナレハ第四月一日(即チ六箇月)ノ間ニ輸出シタル製紙ノ秤量ハ千三百三十四万二千五百二十封度ニシテ為メニ還償セル税額ハ九万零百五十九磅ニ至リ前数年ノ十二箇月間ト其額ヲ同スレハナリ

紙税廃止ノ為メニ国産税局ノ官吏ヲ廃黜スル丁左ノ如シ

	人員	給料
従行中區監督	六	一、四七〇
騎行中區監督	七	一、七八五
徒行小區吏員	一三〇	一七、五五〇
騎行小區吏員	三六	四、六八〇
一級税吏	二	一九〇
輸出掛検査官	一	三五〇

輸出掛之負

計	一八三	二六、一一二
此他文具及ヒ納税ノ證トシテ製紙ノ每帖每包ニ貼付スヘキ印紙標記等ノ費額ヲ筭セハ其節減高ハ大約二千五百磅ニ至ルヘシ	一	八七

驛車税之事

驛車税ハ從来印税所得税両司ノ管掌スル所ナリシカ千八百四十七年ニ於テ始メテ之ヲ国産税司ノ所轄ニ帰セリ而シテ其税率ノ如キハ千八百三十二年以降変更スル無キニ非スト雖氏概子同年ノ法令ニ遵テ收入スル者ナリ

驛車税ヲ分テ二種トス其一ヲ每年收納スル免許税トシ其二ヲ行程ノ遠近ニ從テ收納スル里税トス蓋シ此両税ヲ收入スルニハ每車ノ両側面ニ金属ノ延板ヲ附着シテ免許ノ番号ヲ記セシメ且免許状中ニ運轉ノ線路ト里程トヲ載スル故ニ若シ此線路ヲ轉シテ彼線路ニ移ラントト欲スル時ハ必ス別ニ免許補状ヲ請ハサル可ラス

千八百四十二年ニ於テ免許票状ノ税ハ三磅三司令ニシテ五司令ノ免許補状ノ税ヲ課シ且里税一邉尼半ヲ課シタリシカ千八百五十五年里税ヲ減シテ一邉尼ト為シ又免許補税ヲ一司令ニ減シタリ憶ニ此改正前ニ在テ免許補状ノ税ハ僅ニ五司令ニ過キスト雖氏其實ハ十司令ノ税タルニ異ナラス何トナレハ須臾ノ間線路ヲ轉シテ後チ其原路ニ復スル時ハ更ニ免許補状ノ税ヲ納ノサル可ラサレハナリ況ンヤ此補状税ハ人民ヲシテ須臾ノ間線路ヲ変換スルヲ妨ケ或ハ免許ヲ得スシテ妄ニ之ヲ変換セシムルノ患ナシトセサルニ於テヲヤ試ニ其證左ヲ示サン二倫敦府ノミニ於テスラ千八百五十一年第一月乃至第七月間所

補状税減額前ニ請求シタル免許補状ノ数ハ僅ニ五十一葉ナリシニ千八百五十六年ノ當時即チ補状税減額後ニ至テハ四百九十四葉ノ多キニ及ヘリ

千八百六十三年ニ至テハ旅客八名以下ヲ載スル駅車税ヲ減シテ免許原状ノ税ヲ十司令ト為シ又免許補状ノ税ヲ六邑尼ニ減シ里税ヲ半邑尼ニ減シタリ

千八百六十六年哥利土斯頓氏ハ會計豫算表ノ演説ニ於テ豫メ當時ノ歳入剰餘額ヲ以テ大ニ車税ヲ減免セントスルニ今ヤ其額ノ充足ナラサルヲ追悔シ終ニ里税一邑尼ヲ減シテ一邑尼ノ四分一ト為セリ今夫里税ノ減免ニ依テ人民カ為ニ利益ヲ享有スル幾何ナル乎ハ分明ニ之ヲ諒知スルヲ得ス唯ホ豪ノ臆想スル所ニ據ルニ減税後未タ曾テ車賃ノ減却スルヲ聞カス実ニ倫敦府ニ於テハ却テ之ヲ増加シタリ憶ニ如斯ハ全ク車馬購入畜養費等ノ増加スル為メナレハ若シ里税ヲ減却スル今日ノ域ニ至ルヲ得サラシメハ乗車賃ハ尚一層騰貴スルヲ見ルヘシト云フト蓋シ倫敦府内ノ駅車ヲ専有スル駅車會社ノ説ク所ナルヲスヲ敢テ信ヲ措クニ足ラス然リ而シテ次ニ掲クル所ノ駅車運轉里税表ニ據テ里税ノ減却スル毎ニ運轉ノ里程ヲ増加スルヲ以テ考フルニ凡所得税ノ報牒ヲ呈スルニ方リ里税ノ軽減ナル時ニ於テハ之ヲ其増重ナル時ニ比スレハ頗ル信依スルニ足ルヘキ者アルカ故ニ夫ノ里程ノ増加スルモ亦此等ノ事由ニ依ルカ若夫否ラサルモ猶旅客ノ便益ニ供セシカ為メニ運轉ノ里程ヲ増加シタルヤ心セリ今夫ノ里程表ニ據ルニ千八百六十四年ニ於テハ之ヲ千八百六十三年ニ比スルニ二万里ヲ増加シ千八百六十四年ノ減税後ハ其前年ヨリ六十九万里ノ増加シタリ又其翌年ニ於テハ六十万里ノ増加シタリシカ

七万八十六千三百八十三里ノ程ヲ以テ、四分一ニ減スルニ至リ、其差額ハ五千里程ハ運ニ増シテ三十四百零五万四千里ト為リ是ヲ第六月三十日ニ終ル年度間驛車運轉スレハ、全ノ百十七万九千里ノ増加スルニ及ヘリ

千八百六十三年第六月三十日ニ終ル年度間驛車運轉里程及ヒ里程免許料ノ收入額ヲ示スヲ左ノ如シ

驛車運轉里程	毎里之稅率			計
	一邊尼	半邊尼	一邊尼ノ四分一	
千八百六十三年	三一、五六〇、四二	・・・・・	・・・・・	三一、五六〇、四二
千八百六十四年	二九、六三、六六九	一九、五八、五三一	・・・・・	三一、五八一、二〇〇
千八百六十五年	二九、二六二、六一三	三〇、一五、九八一	・・・・・	三二、七八五、九四
千八百六十六年	二九、五六五、九六	三、三一〇、七一八	・・・・・	三八、七五八、一四
千八百六十七年	一、六四四、六一一	六三、九六四	三、三六、三三	四〇、五四七、九八

入之額	收銃兌	計
四万四千四百零九磅	二万四千四百四十二万三千九百零四磅	四万四千四百四十二万三千九百零四磅
二千四百零九磅	二万三千三百零四磅	二万三千三百零四磅
六十一万二千四百零九磅	四万三千三百零四磅	四万四千四百四十二万三千九百零四磅
三千二百四十二万三千九百零四磅	二万三千三百零四磅	四万四千四百四十二万三千九百零四磅
三千二百四十二万三千九百零四磅	二万三千三百零四磅	四万四千四百四十二万三千九百零四磅

従来驛車稅ハ之ヲ車主ノ利潤ニ比例シテ若干ニ当ル乎ヲ判スルニ於テ最モ難シトスル所ナリシカ一タヒ倫敦驛車會社カ信依スルニ足ルヘキ會計簿ヲ製シテ之ヲ刊行スル以来ハ大ニ調査ノ便ヲ得タリ而シテ此會計簿ハ特リ驛車ノミニ於ケルモ又他ノ同種類ノ稅ニ比較スルモ其稅額ノ軽重ヲ審案スルニ於テハ均シク其功ヲ奏スル者トス

夫驛車稅ト錢道稅ノ均當ヲ得サルハ倫敦驛車會社刊行ノ會計簿ニ就テ之ヲ徵スヘシ依テ茲ニ千八百六十四年間ノ實蹟ヲ示スヿ左ノ如シ

此年倫敦驛車會社ノ利潤ハ六十一万二千四百零九磅ニシテ其政府ニ收納スル里稅及ヒ免許稅ノ總額ハ五万三千三百零四磅ナルカ故ニ之ヲ利潤ニ對比スルトキハ八分七厘ニ当ル然ルニ全国内ノ錢道會社カ收ムル所ノ利潤ハ三千二百四十二万三千九

百五十八磅ニシテ其政府ニ收納スル所ノ稅額ハ四十三万零八百六十五磅ナルヲ以テ即チ利潤ニ對シテハ僅ニ一分三厘ナルニ過キス故ニ若シ鐵道會社ニテ納ムル所ノ稅ヲシテ驛車稅ニ比例セシメハ二百八十二万千七百五十四磅ナラサル可ラサル明矣若夫諸經費ヲ彙除シテ純益金ト爲シ此兩稅ノ輕重ヲ比較セン乎其均当ヲ得サルヤ益々甚シキニ至ル蓋シ驛車稅減額ノ前ニ在テ鐵道會社ハ三千二百四十三万三千九百五十八磅ノ利潤ヨリ千七百五十一万千磅ノ純益金ヲ收メ又驛車會社ハ六十一万二千四百零九磅ノ利潤ヨリ十一万九千五百零三磅ヲ收ムルカ故ニ驛車稅ハ純益金ニ對比シテ四割四分強ニ当ルモ鐵道會社ノ納ムル所ハ僅ニ純益金ノ二分四厘ニ過キサルノミ而シテ今試ミニ千八百六十四年ニ於テハ既ニ里稅ヲ廢止四分一ニ迄減シタリト假定シテ算シ來ルモ倫敦驛車會社ハ尚ホ一万四千九百二十七磅ノ稅額ヲ納メサル可ラサルカ故ニ之ヲ鐵道稅ニ比例スルキハ六千九百六十六磅ヲ過納スルノ割合ナリ

里稅ハ倫敦府内ニ在テハ本寮ノ吏員ノ管掌スル所ニシテ毎月第一月曜日ニ於テ之ヲ收メ其府外ニ在テハ地方ノ吏員毎收稅期ノ終ニ於テ之ヲ收ム而シテ其總稅額ノ過半ハ全ク倫敦ノ驛車ニ依テ收ムル者ナリ將タ驛車稅ハ其免許稅タルト里稅タルトヲ問ハス千八百六十九年第十二月三十一日ヲ以テ之ヲ廢止セリ

傭車稅之事

傭車稅ハ倫敦府ニ於テノミ之ヲ課スルニシテ千八百五十三年前ニ在テ傭車ノ運轉ハ唯々驛逓局ノ周圍五里内ニ限リ其府外ノ如キハ特リ驛馬稅ヲ課スルノミ蓋シ傭車及ビ轎車免許稅ハ

既一千六百六十二年査尓斯二世ノ世ニ於テ之ヲ課スト云フ
千八百十五年傭車税ヲ管理スル官吏ハ傭車千八百輌即チ馬車
千輌半馬車四百輌轎車四百輌ノ免許状ヲ発行スヘキノ允可ヲ
得タリシカ其実ニ発行シタル者ハ千二百枚ニ過キサリキ
夫如斯ノ傭車ノ免許状ヲ制限シテ漫ニ之ヲ発行セサルカ故ニ
其持主ハ恰モ一種貴重ノ特權ヲ有スルノ状ヲ為シタリシカ千
八百三十一年之ヲ印税局ノ所轄ニ帰シテ彼我ノ別ナク其業ヲ
営マシメントスルニ当テ一年間ハ尚従前ノ特權ヲ保護スヘキ
ニ決シ終ニ千八百三十三年第一月ヲ以テ全ク其制限ヲ廃止シ
タリ故ニ当年ニ於テ発行シタル免許状ノ数ハ八百枚ノ多キニ
至リ尓後其数ハ漸ヲ逐テ増加セリ
傭車税ハ千八百四十七年第九月五日ヲ以テ国産税局ノ管理ニ
帰シ猶驛車税ニ於ケルカ如ク二種ニ分テ之ヲ課ス其一ヲ免許

税千八百五十三年前ニ在テハ免許状ノ期ヲ終身ニ限レリトシ其二ヲ毎週税トス而シテ國
産税局ニ於テハ免許状ヲ発行スル毎ニ番號ヲ記シタル延板ヲ
附與シテ之ヲ各車ニ附着セシムルヲ以テ延板ヲ附着セサル者
ハ街頭ニ在テ衆庶ノ傭使ニ供スルヲ得ス蓋シ延板ハ二年毎ニ
之ヲ交換シ千八百六十八年第四月間ノ製造費ハ五百六十六磅
ナリトス
毎週税ハ毎月第一月曜日ニ於テ四週間分ヲ前納セシム蓋シ従
前ニ在テハ其率十司令十リシカ千八百五十三年ニ至テ全週間
傭使ニ供スヘキ免許ヲ得タル者ニハ其率ヲ減シテ七司令ト為
シ日曜日ヲ除テ傭使ニ供スル者ニハ六司令ニ減シタリ又此年
ニ於テ従前倫敦區内ニ限トル運轉ノ里程ヲ擴充シテ警視方面
内ニ及ホシ尋テ五磅ノ免許税ヲ減シテ一磅ト為シ以テ毎年之
ヲ納メシメタリ

既ニ如斯ク傭車ノ種類ヲ六日間傭使スル者ト七日間傭使スル者トニ分畫スル以上ハ收拠吏員及ヒ巡査等カ分明ニ之ヲ監別スルニ足ルヘキノ標記ナカル可ラス此ニ於テカ七日間傭使ニ供スル者ノ延板ニハ第一番乃至第三千九百九十九番ノ番號ヲ記シ其六日間傭使ニ供スル者ニハ第一万番乃至第一万一千三百九十九番ノ番號ヲ記シ且彼此ノ色樣ヲ異シタリ

千八百五十三年傭車ニ関スル事務ハ多クハ警視局ノ所轄ニ帰シタルカ故ニ尓後ハ其經費トシテ毎年傭車税ニ依テ收ムル所ノ金額一万千磅ヲ裁テ之ヲ該局ニ交付ス蓋シ警視局ハ馭者馭者ハ車主ト異ナリ ニ免許状ヲ附與シ且各憩止場ニ於ケル馬丁ヲ命シテ之ニ傭金ヲ支給スルノ權ヲ有ス又從前國産税局ノ所轄タリシ遺失物貯藏庫ヲ主管ス故ニ若シ旅客ノ傭車内ニ於テ遺失スル物品アラハ馭者ハ必ス二十四時内ニ於テ之ヲ貯藏庫ニ納メサル可ラス

茲ニ千八百六十七年乃至千八百六十九年ノ三年ニ於ケル三箇月間ニ発行シタル延板ノ数ヲ掲クル丁左ノ如シ

	千八百六十七年	千八百六十八年	千八百六十九年
第一月	五、八七五	五、七四二	五、五七五
第二月	五、九三六	五、七四四	五、六六三
第三月	五、九二四	五、七二九	五、六五五

千八百六十六年第七月間ニ發行シタル延板六千三百五十三枚ハ未曾有ノ大数タリ

傭車税ハ免許税タルト毎週税タルトヲ問ハス千八百六十九年第十二月三十一日ヲ以テ之ヲ廢止セリ

驛馬税之事

驛馬税ハ千七百七十九年英蘇両國ニ於テ始メテ之ヲ施行セシカ尓来行旅ノ方法変換スルニ従テ課税ノ困弊ヲ来シ曾テ充分ノ税額ヲ收メルナク唯々驛馬主ノ煩労ヲ招クニ過キサリキ千八百五十三年ニ於テハ従前ノ里税ヲ廢シ更ニ車馬ノ数ニ従テ軽重スル所ノ免許税ヲ課セシカ此改正ニ依テハ一方ニ向テハ驛馬主ノ煩労ヲ省キ又一方ニ向テハ着ルク従来ノ收税額ヲ減却スルニ至ラス富豪ノ営業者ハ為メニ大ニ納税額ヲ軽減スルヲ得タリト雖モ貧窶ノ営業者ハ却テ其納額ヲ増重シテ其減差ヲ償タルヤ疑ヲ容ル可ラス且此改正ノ為メニ倫敦府内ニ往スル或ル驛馬主ハ一時ノ遊戯ニ供スル車馬ノ賃錢ヲ低減シタルカ故ニ衆庶ハ大ニ其便益ヲ得タリト云フ又以テ納税額減差ノ著ルキヲ知ルニ足レリ又聞ク所ニ據ルニ千八百五十二年驛馬主三名ノ收納スル税額ハ各五百七十二磅、四百八十四磅、三百三十一磅ナリシカ千八百五十六年ニ至テハ僅ニ百二十磅、百十磅九十磅ニ過キスト云フ

愛尓蘭ニ於テハ千八百年ニ至テ始メテ驛馬税ヲ施行シ傭使ニ供スル馬ヲ畜養スル者ヲシテ毎年二磅四司令一邊尼ノ免許税ヲ收納セシメシカ千八百六十八九年ノ交ニ於ケル收入額ハ僅ニ四千八百七十五磅ニ過キサリキ

驛馬税ハ驛車税傭車税ニ均シク千八百六十九年第十二月三十一日ヲ以テ之ヲ廢止セリ

鉄道税之事

鉄道税ハ千八百三十二年ニ於テ始メテ之ヲ施行シ旅客四名ニテ一里毎ニ半邊尼ノ税ヲ課セシカ千八百四十二年ニ至テ現今施行スル所ノ乗車賃五分ノ税ニ改正シ鉄道會社ヲシテ日計簿

ヲ製シテ旅客ノ員数ヲ記シ毎月初旬ニ於テ之ヲ印税局ニ報告シテ税額ヲ納メシムルノ制ヲ定メ其日数計算法ノ如キハ前月ノ第一月曜日ヨリ應ニ報告ヲ為スヘキ翌月ノ第一月曜日迄ヲ算入スルヲ例トス又千八百四十七年ノ法令ニ依リ鉄道會社ノ簿冊ハ印税局官吏ヲシテ恒ニ之ヲ検査セシムルノ制ヲ定メタリ

鉄道税ハ千八百四十七年第九月五日ヲ以テ之ヲ國産税局ノ管理ニ帰シ又千八百六十三年ニ於テハ專ラ鉄道會社ノ便利ヲ計ルカ為メニ従前ノ日計報告呈送期日ヲ変換シテ前月間ノ報告ハ之ヲ翌月ノ二十日迄ニ呈送スルヲ得セシメタリ

蓋シ従来ノ税法ニ依テハ曾テ本寮ト鉄道會社ノ間ニ紛議ヲ醸成スルノ事ナカリシカ千八百四十四年ニ於テ貧民ノ為メニ下等ノ客車ヲ備ヘ廉價ノ乗車賃ニテ彼等ヲ運送スルキハ該車ニ就テ得ル所ノ利益金ニハ税額ヲ免除スヘシトノ制ヲ設ケヨー

密ニ本寮及ヒ勧商局ト鉄道會社トノ間ニ紛議ヲ醸ヒスルノミナラス又大ニ政府ノ歳入ヲ減却シタリ憶ニ将来如斯事情ノ現出スヘキハ當時議政官ノ察知セサル所ナルヘシ

今茲ニ千八百四十四年ノ法令ヲ略記センニ始メニ廉價ノ乗車賃ニテ貧民行旅ノ便ニ供セシカ為メニ風雨ヲ防クニ足ルヘキ鉄道客車ヲ備ヘ云云」ト云ヒ次ニ「鉄道會社ハ左ノ規則ヲ遵守シテ耶蘇降誕日及ヒ耶蘇殂落日ヲ除クノ外毎日下等客車ヲ列車中ニ連テ甲停車場ヨリ乙停車場ニ駛走セシメ以テ三等旅客行旅ノ便ニ供セサル可ラス

第一　鉄道列車ハ勧商局ノ命令スル時限ニ於テ出發セサル可ラス

一　汽車ノ平均速力ハ一時毎ニ十二里ヨリ下ルヲ得ス

レ二　各停車場ニ於テハ必ス旅客ノ意ニ任シテ之ヲ乗車セシメ或ハ下車セシメサル可ラス

第四　鉄道客車ハ必ス勧商局ノ調査ヲ得サル可ラス

第五　三等旅客ノ乗車賃ハ一里毎ニ一邊尺ニ超過スルヲ得ス

（此他ニ旅具ノ斤量及ヒ小兒ノ運送等ニ就テ定ムル所ノ規則アレトモ茲ニ之ヲ略ス）

ト云ヘリ又此後ノ法令ニハ下等客車ヲ以テ一里毎ニ一邊尺ニ超過セサル乗車賃ニテ旅客ヲ運送スル鉄道會社ニハ其乗車賃ニ税ヲ課セサルヘシトノ一款ヲ掲ケリ

夫如斯ク三等旅客ヨリ收入スル乗車賃ニ課税ヲ免除スル所以ノ者ハ何ッヤ蓋シ政府ニ於テ乗車賃ノ額ヲ制限スレハ啻ニ課税ノ制ト両立ス可ラサルノミナラス鉄道會社ハ為メニ多少損害ヲ蒙ムル無キニ非サレハナリ然ルニ幾モナク鉄道會社ハ乗車賃ノ廉價ナルハ却テ利益ヲ得ルノ根源タルヿヲ察知シタレハ最日ニハ政府ヨリ強テ列車ノ内必ス下等客車一輌ヲ連ヌヘキヲ促シタルモ今ヤ自ラ好テ一里毎ニ一邊尺ノ乗車賃ニテ下等客車数十輌ヲ駛走セシメ上等中等客車ノ如キモ亦往々下等ノ乗車賃ニテ遊戯客車ト為スニ至リ遂ニ今日ニ至テハ全國内ノ鉄道會社ニシテ其例ニ倣ハサル無キニ及ヘリ

原来政府ノ目的タルヤ如斯キ利潤アル営業上ニ課税ヲ免除セント欲スルニ非ス然ルニ今ヤ夫ノ免税法ハ特リ下等客車ニ及フノミナラス或ル會社ニ於テハ曾テ乗車賃ノ課税スルニ足ルヘキ者無キニ及ヘリ加之上等中等ノ乗車賃ノ如キモ亦均シク免税セラレンヿヲ請求スル者アリテ現ニ政府ノ裁決ヲ仰ケリ

子　了六十三年ノ改正法ヲ以テ「凡鉄道税ハ下等ノ乗車賃ニテ

一毎六箇日ヲ駛走スル客車及ヒ市場ニ向テ發シ或ハ日曜日ニ駛走スル客車ニ非サレハ之ヲ除免ス可ラス」トヽ令ヲ發シタリシカ原来此法ハ遊戯客車ニ依テ收ムル所ノ乘車賃ニ課税ヲ免除スル無ランカ為メナリト雖モ敢テ好結果ヲ呈スルニ至ラス何トナレハ千八百六十二三年間ニ課税シタル乘車賃ノ總額ハ七百七十四万二千五百零五磅ナリシニ千八百六十八九年ニ至テハ千万零七千六百六十七磅ニ増加シ又千八百六十二三年間ニ免税シタル乘車賃ハ四百二十一万三千零十二磅ナリシニ千八百六十八九年ニ及テハ五百九十五万四千百四十七磅ノ多キニ至レハナリ

今夫如斯ク政府ノ歳入ヲ損減スル所以ノ者ハ特リ税法ノ明解ニ缺クル所アルカ為メノミニ非ス前既ニ陳述スルカ如ク鉄道會社ニ於テハ乘車賃收入高ノ報告ヲ為シ又本案ニ於テハ奸計ノ所為アランヿヲ慮リ之ヲ審案調査スルノ際ニ在テ彼此軋轢シテ屢々紛議ヲ讓成スルノ患アレハナリ故ニ苟モ此等ノ弊害ヲ除カント欲セハ今日ノ免除法ヲ廢シテ更ニ一般ノ收入額ニ輕税ヲ課スルニ若カサルヘシ而シテ該社ノ冀望スル所モ亦決シテ之ニ出テサルヘシト思ハル

前既ニ開陳スルカ如ク鉄道税ハ之ヲ會社ノ純益ニ比スルニ其率タル實ニ僅少ナリト雖モ政府ノ收入額ニ至テハ固ヨリ漸次増加セサルニ非ス將タ愛尔蘭ニ於テハ尚今日ニ至ルマテ之ヲ課セス

競馬用馬税之事

競馬用馬税ハ從来雜税局ノ主管スル所ナリシカ千八百五十六年ニ於テ之ヲ國産税局ノ所轄ニ帰シ競馬ヲ興行スル前ニ書記ヲ該税ヲ收入セシメタリ然ルニ其翌年「ウヨーセルヒー」氏

ラシ各官ニ命シテ英倫及ヒ蘇格蘭ノ両國ヲ総管セシメ牧税額
一磅毎ニ一司令ノ割合ニ當ル歳俸ヲ支給シタリシカ氏ノ資性
敏捷ナルヤ大ニ事務ノ體裁ヲ一変スルニ至レリ
皮相ヨリ之ヲ論スレハ褒賞若クハ金銭ノ為メニ競争セシムル
馬ニハ悉ク課税セサル可ラスト雖モ本案ニ於テハ唯税法ノ精
神ヲ取ルカ故ニ農夫或ハ猟人ヲ褒賞スルノ目的ヲ以テ競馬ヲ
興行シ既ニ乗馬トシテ雑税ヲ課セサル者ニハ決シテ牧税スル
コトナシ